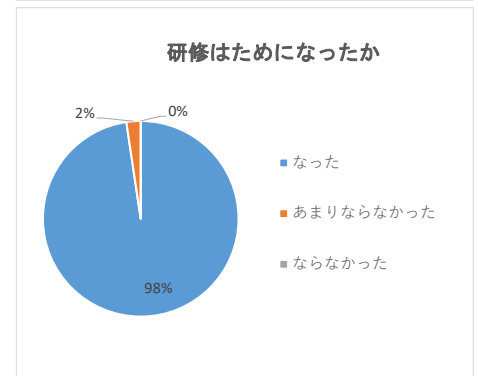
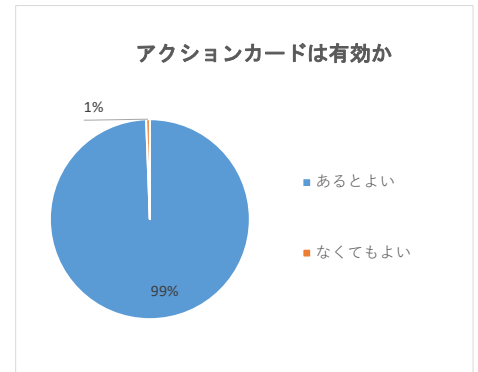
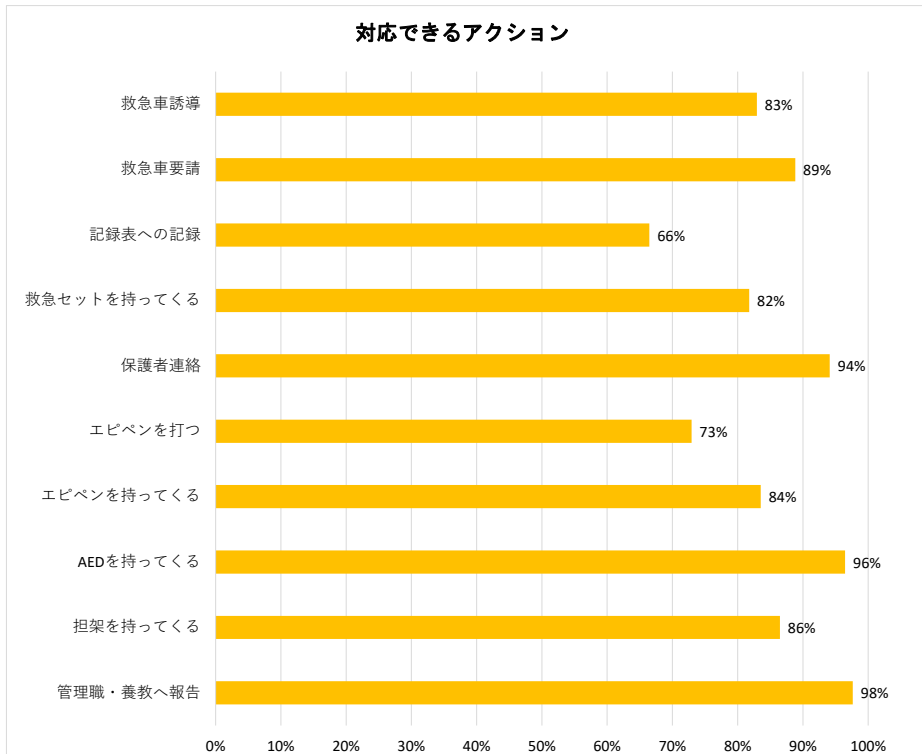
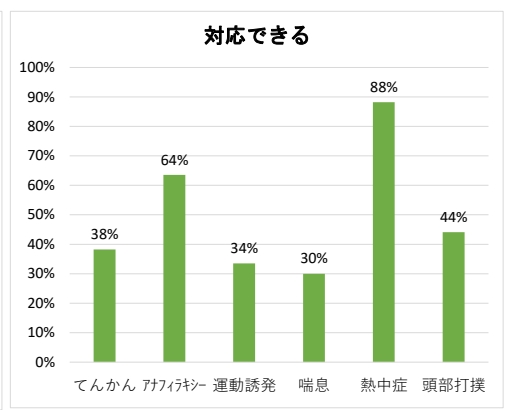
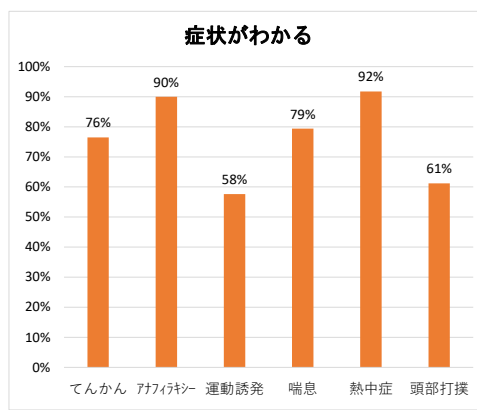
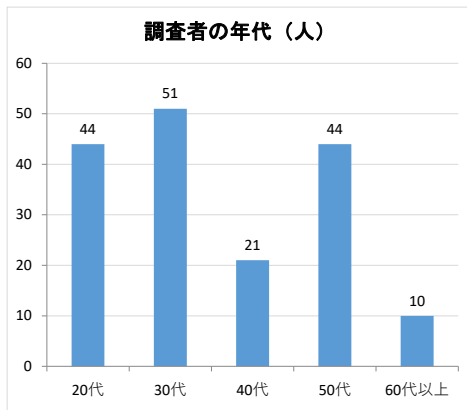


## 研修後 職員の危機管理についての調査結果（調査人数170名）



## 【研修を終えて 意見・感想】

## ～成果～

- ・児童生徒の生命や安全を第一とし、全教職員が緊急時にスムーズに動くためには、それぞれの役割を明確化する必要があり、アクションカードがとても有効であった。
- ・場面を設定し、役割分担をしたことで職員が役割を理解し、迅速に対応することができた。
- ・各教室にてんかん・熱中症・食物アレルギーのカードがあることで、より早く、より自信を持って対応することができた。

## ～課題～

- ・アクションカードを使った、継続的で実践的な取り組みが必要。
- ・研修内容がマンネリ化しないような工夫が必要。

## 【考察】

- ・研修前に養護教諭部会で作成した「てんかん」「熱中症」「運動誘発アナフィラキシー」のフローチャートや観察チェックリストマニュアルを配付し、全職員で要点を確認したことで、「症状がわかる」が半数以上であった。
- ・熱中症については、症状がわかる割合が92%で、さらに対応できる人は88%であることから、約9割の人が、知識をつけ行動できることになった。アナフィラキシーにおいては、約9割の人が知識としては習得できているが、対応できるのは約6割であった。その他の症状に関しても、知識習得はあるが、実際に対応するのは難しいと答える人が半数以上いる。研修を行った時期が夏休みということもあり、熱中症対応のシミュレーションや説明も含めたことが、熱中症対応の自信に繋がったと考えられる。
- ・頭部打撲は、日常生活において発生しやすい。頭部打撲におけるシミュレーション研修を実施し、養護教諭不在時でも、全職員が対応できるようにする必要がある。てんかん、運動誘発アナフィラキシー、喘息においても、対応できる自信のある職員が少ないことから、各学校で研修を進めていく必要がある。
- ・対応できるアクションは、「記録表への記録」「エビペンをうつ」が約3割の人ができないと答えた。それ以外の項目においては、8割以上の人が対応できると答えていることから、アクションカードを用いたことで、どこに何があるかが明確になり、自分の役割が細かくカードに記載されていることで、自信を持って行動できたと言える。

今後も緊急時対応における職員研修を定期的実施していきたいと思っております。  
職員一人一人が自信をもって行動できるよう、今後ともご協力をお願いします。